

(改善の具体的方策)

前期課程においては神学部からの接続を考慮し、円滑に研究指導を行える体制を検討する。

後期課程における、学位（博士）論文作成に伴う支援策として、学会発表や研究雑誌への投稿などに対する補助制度を設け、在学中に論文2本、学会発表2回というような具体的な目標を掲げるよう指導する。

後期課程は必ずしも研究者育成のみを目的とせず、牧師などの専門的職業に従事する者が、しばらくの間、職を離れて集中的に研究を行い、その成果を持ってまた職に戻るといった生涯学習の場として捉え、研究演習などの新たな指導体制を検討する。

1.2.3.3 教育方法のあり方

【評価項目 6-3-1】 授業形態と授業方法の関係

(必須要素) 授業形態と授業方法の適切性、妥当性とその教育指導上の有効性

(必須要素) マルチメディアを活用した教育の導入状況とその運用の適切性

(必須要素) 「遠隔授業」による授業科目を単位認定している大学・学部等における、そうした制度措置の運用の適切性

<2003年度に設定した目標>

今後とも、FDに関する研究会を中心に、時代の変化や学生の要請を考慮に入れて検討を続けていく。将来に向けての目標は以下のようである。

1. FD研究会を開いて、授業方法の改善に努める。
2. 効果的なマルチメディアの利用法について、研究を重ねる。
3. インターネットを利用した授業運営を研究する。

ウェブ上で資料を配付したり、提出物を受け付ける。また、掲示板を利用して質問を受け付けるなど、学生の便宜を考えた授業運営を研究する。

(現状の説明)

前期課程の授業は「講義」「演習」「実習」の各形態によって行われる。講義科目の履修学生数は20名前後であり、学生の発題に基づく討論など、単に講義に留まらない授業方法も積極的に取り入れている。また演習科目はいずれも10名に満たない学生で構成されており、教員と学生あるいは学生同士の十分な対話がなされている。

実習科目には主に夏期に集中して行う「教会実習」「臨床牧会実習」がある。いずれも10名弱の学生で構成される実践の場（教会および病院）へのインターンシップ科目である。過去3年度の履修者は以下のとおり。

年度	教会実習	臨床牧会実習
2004	9名	6名
2003	6名	6名
2002	5名	5名

後期課程の授業は「講義」および「演習」の形態がある。

前期課程および後期課程とも、学部に比べてマルチメディアを利用した授業は少ない。教室の設備としてのCD・DVD再生機器やPCと接続可能なプロジェクタおよびスクリーンなどの環境は整っている。

インターネットを利用した授業運営についての実績は皆無に等しいが、レポートなどの様式をホームページからダウンロードさせるなど、若干ではあるが試みがなされている授業も存在する。

「遠隔授業」については、前期課程および後期課程のいずれにおいても実績はない。

(点検・評価の結果)

「講義」「演習」「実習」の各形態すべての科目が、その授業目的を達するに適切な規模で実施されている。特に「教会実習」「臨床牧会実習」は、いずれも教会や福祉施設などにおける専門的職業を目指す学生たちにとって必要不可欠な科目となっている。このような実践的な科目の内容や評価における手続などにおいては、協力先(受け入れ教会・病院)との連携を欠くことができない。そのあり方を検証する時期にきている。

さらに、実習病院の幅を広げたり、福祉施設や各種キリスト教関係団体でのインターンシップは、今後の実習科目の展開として検討に値する。

後期課程の授業は「講義」および「演習」の形態があるが、遠隔地ですでに専門的職業に従事している者もあり、その教育方法や研究指導の方法について検討の余地が残っている。

マルチメディア・インターネットを利用した授業運営に関して、まずはそれらを用いて何ができるのかを検討しなければならない。とくに後期課程においては遠隔地で伝道者として就業する者も多く、効率的な利用方法を見出すことが必要である。

(改善の具体的方策)

前期課程における実習科目において、事前・事後指導をさらに充実するとともに、スーパーバイザーとの連絡、協力先機関との連携を密にするための施策を検討する。

インターンシップ制度として、新たな展開を目指した実習協力先機関を求める。

後期課程において遠隔地にいる学生のための出張指導実現の具体的方策の検討を行う。また、神学研究会の地方開催や教職セミナーの地方巡回方式による授業や研究支援を行うことの可能性を検討する。

マルチメディア・インターネットの利用に関しては、単に講義内容のスライド化など視覚的な利用に留まらず、学生の資料収集、研究発表、論文作成のプロセスの一助となるような利用方法を検討する。

1.2.3.4 教育成果のあり方

【評価項目 6-4-1】 教育効果の測定

(必須要素) 教育・研究指導の効果を測定するための方法の適切性

(選択要素) 修士課程、博士課程修了者(修業年限満期退学者を含む)の進路状況

(選択要素) 大学教員、研究機関の研究員などへの就任状況と高度専門職への就職状況